

2013（平成25）年度 東京大学 入試問題 第4問（文系） 解答例

- 一 知覚それ自体に、生活上の要求から純粋な知覚の過程を超えようとする、知性による予測や思考が常に伴っているということ。
- 二 家が、視覚でとらえる以上に、行動対象として向かい続ける身体の志向性と密接に関連し、全体的に意識されているということ。
- 三 日常の視覚では、持続し、限りなく変化する世界が、身体的な生活の要求から、相対的に変化のない状態で意識されるということ。
- 四 写真による非中枢的な切断が示す単純な視覚の事実は、人間の身体的知覚とは無関係な世界の確実な存在を意識させるから。